

# 子宮頸がんは予防できる『がん』

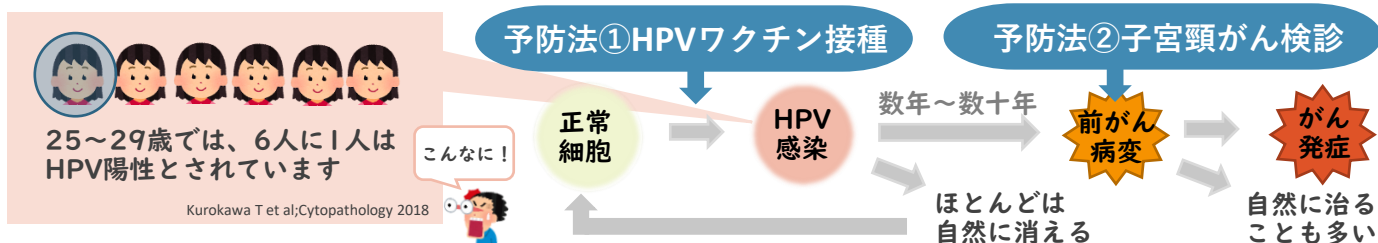


↑↑↑  
ホームページには  
健康情報が  
盛りだくさん!



## ◆ 若い人がかかる「がん」、予防が大事!

子宮頸がんの原因はヒトパピローマウイルス(HPV)感染です。HPV感染が長期間続くと、正常細胞からがん細胞へと変化します。がんを予防するためには①**HPVワクチンを接種**することで、がんの原因となるHPV感染を予防し、②**子宮頸がん検診を定期的**に受けることで、がんになる前の状態(前がん病変)を発見し、経過観察や治療によりがんへの移行を防ぐことが大事です。

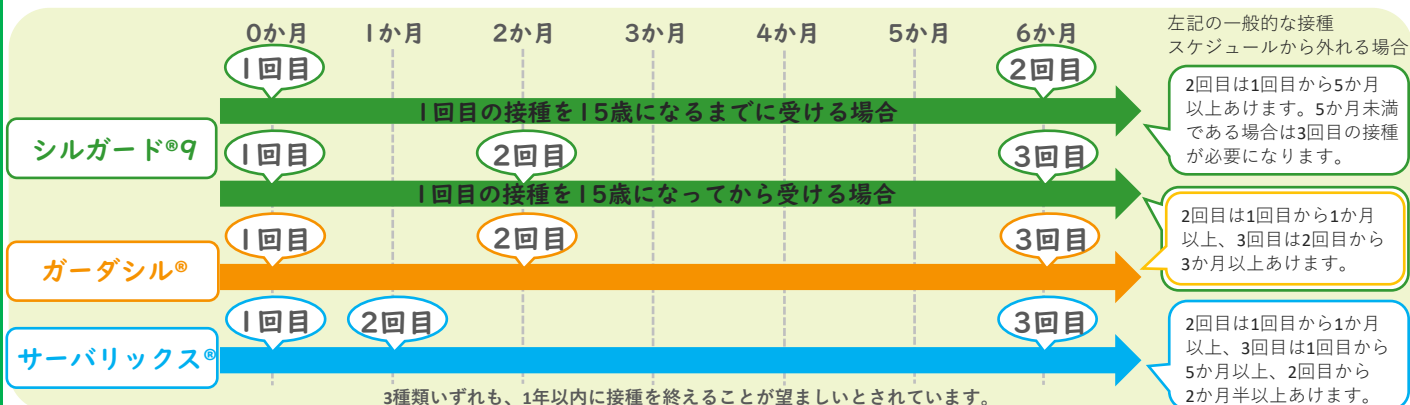


知っておこう!  
子宮頸がんのこと

子宮頸がんは子宮の頸部(子宮出口付近)にできるがんで、若い女性も多くかかっています。日本では毎年、約1.1万人の女性がかかり、毎年約2,900人が亡くなっています。患者さんは20歳代から増え始め、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう(妊娠できなくなってしまう)人も、1年間に約1,000人います。

## ◆ HPVワクチン接種には費用がかかるの?

小学校6年生~高校1年生相当の女子は公費(自己負担なし)で接種することができます。現在、日本において公費で受けられるHPVワクチンは、2価ワクチン(サーバリックス®)、4価ワクチン(ガーダシル®)、9価ワクチン(シルガード®9)の3種類があります。※どのワクチンを接種するかは、接種する医療機関に相談してください。



## ◆ 打つなら今!! キャッチアップ接種!!

HPVワクチンの積極的な勧奨の差し控え※により接種機会を逃がした女性に対して、公平な接種機会を確保する観点から、定期接種の対象年齢を超えて「**キャッチアップ接種**」が実施されています。

### ●● HPVワクチンの公費助成2024年度の対象年齢 ●●

#### 定期接種対象者

小学校6年生~高校1年生相当の女子  
(2008年4月2日~2013年4月1日生まれ)  
12歳から16歳になる年度中の女子が対象



#### キャッチアップ接種対象者

1997年4月2日~2008年4月1日生まれの女性  
かつ、過去にHPVワクチンの合計3回の接種を  
完了していない方

17歳~27歳

※自費で接種する場合、約10万円の接種費用がかかります! /

**HPVワクチンキャッチアップ接種(公費で接種できるのは)2025年3月末まで!**  
標準的な接種間隔の場合、接種完了までに**6か月**かかります。**2024年9月末**までに1回目の接種を開始した場合、標準的な接種間隔で3回の接種を**公費で完了**することができます。

〇〇市 HPVキャッチアップ接種

接種方法等の詳細はお住まいの市町村のHPからご確認ください

《厚生労働省からの情報》



HPVワクチンについての大切なお知らせ



※ HPVワクチンに関するQ&A